



130th HIROSHIMA PORT 2019

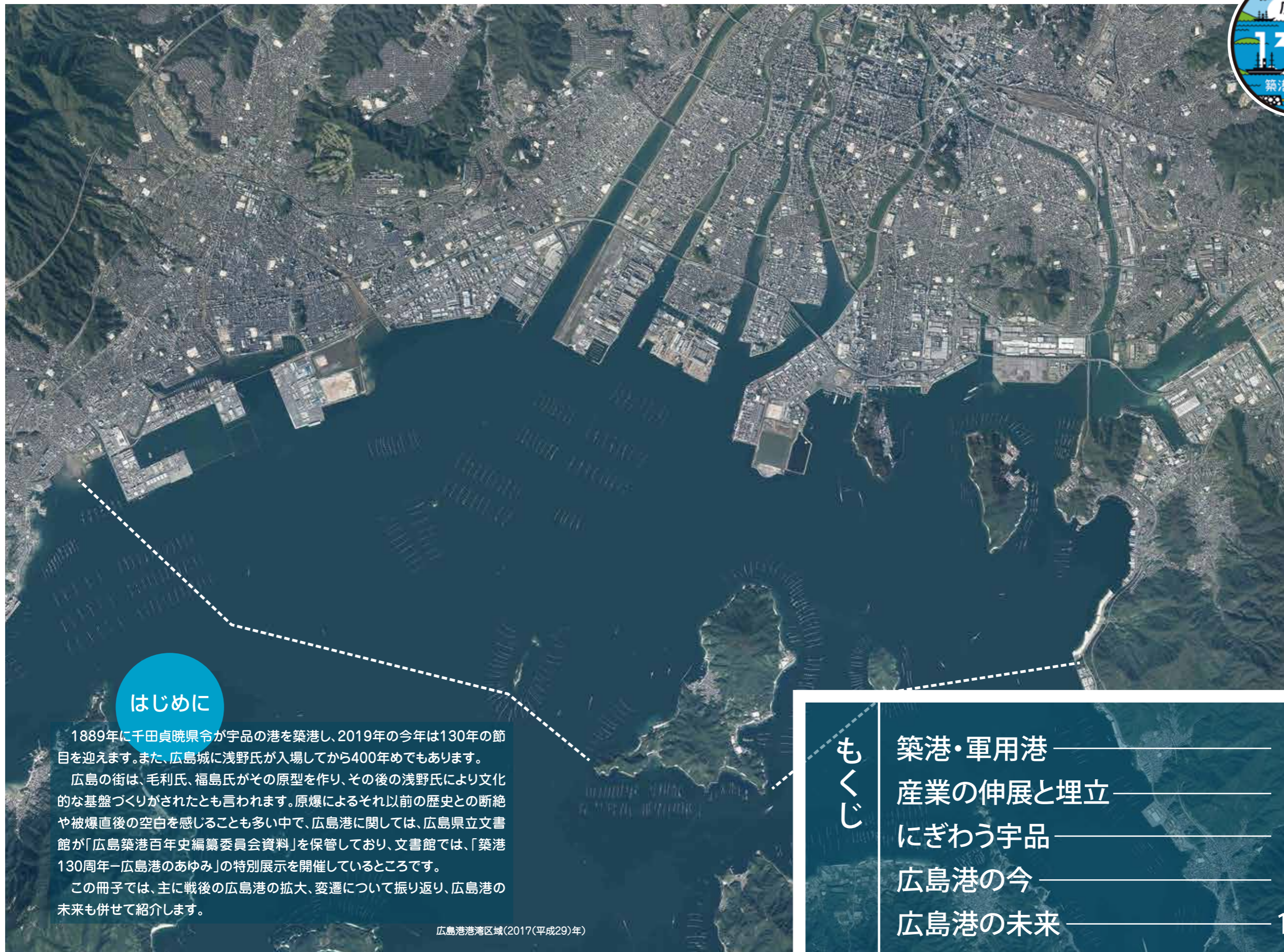
<参考文献>

「平成二十九年度広島市郷土資料館特別展 宇品港」広島市郷土資料館発行
「20年のあゆみ 広島東部流通業務団地(海田湾開発)」広島東部流通団地開発協議会
「広島湾発展史」長野正孝編著
「日本港湾こぼればな史 戦後の日本を支えた港湾史(第2集)」全国みなと会編
「60年のあゆみ」株式会社マツダ運輸広島
「広島電鉄開業100年・創立70年史」広島電鉄株式会社
「広島港築港百年史編纂委員会資料 藤原信雄氏所有写真」
「広島市街図 部分(6) 昭和46年」長船友則氏収集資料 200407-893
「昭和4年9月改正当時の営業別住所入明細図」(あき書房 復刻)
「昭和26年当時の商工業別広島地図」(あき書房 復刻)
「戦後五十年広島県政のあゆみ」広島県発行
「広島港築港130周年を迎えて」広島県広島港湾振興事務所
「広島美奈美国風土記」南区魅力発見委員会 風土記編さん部会

2019年10月
編集/広島県土木建築局 港湾振興課
発行/広島港振興協会
〒730-8511 広島市中区基町10-52
TEL: (082) 513-4020 E-mail: dokouwan@pref.hiroshima.lg.jp

広島港築港130周年

HIROSHIMA PORT



はじめに

1889年に千田貞暁県令が宇品の港を築港し、2019年の今年は130年の節目を迎えます。また、広島城に浅野氏が入場してから400年めでもあります。

広島は、毛利氏、福島氏がその原型を作り、その後の浅野氏により文化的な基盤づくりがされたとも言われます。原爆によるそれ以前の歴史との断絶や被爆直後の空白を感じることも多い中で、広島港に関しては、広島県立文書館が「広島築港百年史編纂委員会資料」を保管しており、文書館では、「築港130周年—広島港のあゆみ」の特別展示を開催しているところです。

この冊子では、主に戦後の広島港の拡大、変遷について振り返り、広島港の未来も併せて紹介します。

広島港港湾区域(2017(平成29)年)

もくじ

築港・軍用港	3
産業の伸展と埋立	5
にぎわう宇品	7
広島港の今	9
広島港の未来	11
年表	13



築港

築港の背景

築港前の広島は、遠浅の干潟が広がるデルタ地帯でした。大型の船は沖合の江波島や宇品島沖に停泊し小船で島に上陸した後に、そこから満潮を待って本川、元安川の雁木まで船で入りやっと市街地に上陸できる状況でした。このため、千田貞暁県令の着任前から築港計画は始まっていました。1880(明治13)年に着任した千田県令は、広島発展のため港湾整備を喫緊の課題とし、旧士族の授産事業としての土地造成と宇品築港を併せて計画し、国に予算の申請をしました。



ムルデルと服部長七

1881(明治14)年2月に内務省から土木局雇工師のムルデルらが来広し現地調査を行いました。当時の日本は、港湾、治水等土木工事一般に関し近代技術がなかったため、ヨーロッパで評価の高かったオランダの技術を導入することとし、ムルデルら技術者を招聘しました。ところが、ムルデルの調査結果をもとに実施設計したところ建設費が予算をオーバーすることが判明します。建設費の圧縮に貢献したのが、服部長七と「人造石」です。1883(明治16)年頃に服部と人造石を知った千田県令は、服部を広島に招き工事費を再積算した結果、大幅に縮減されました。更に県が精査し、工事金額を確定し服部と請負契約を締結します。



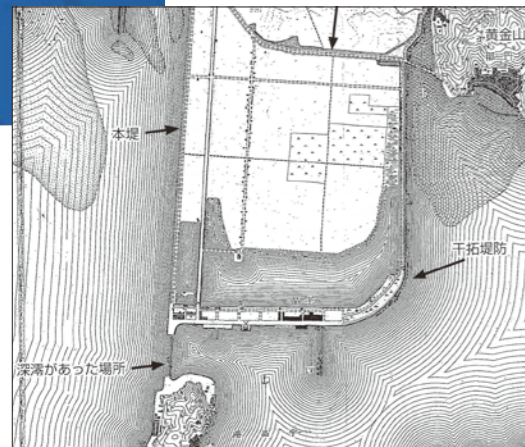
宇品築港で使われた人造石(広島市文化振興課所蔵)

工事の進捗

1884(明治17)年9月5日に盛大な起工式が行われ、工事が始まりましたが、建設資材の現場への搬入が満潮時しかできなかったため、市街地と宇品港を結ぶ新道が前倒しで建設されることになりました。これが現在の「御幸通り」です。1885(明治18)年秋には南側の干拓堤防がほぼ完成し、12月に潮止め(堤防の開閉口を締め切って海水を完全に遮断する作業)工事を行いました。透水のため1日で一部堤防が崩壊。それでも1886(明治19)年の1月1日になんとか潮止め工事が完了しました。ところが、この年の9月には台風が襲来したのが暴風雨に見舞われ、2カ所で堤防が決壊し御幸通りも過半が破壊されました。また、干拓・埋立事業は海苔・牡蠣の養殖場や漁場を失うため漁業者による反対運動もおこります。千田県令が反対住民を県庁に招き、直接工事の説明を行い同意を得た経緯も資料が残されています。

完成と工事費

このような苦難を経て、1889(明治22)年11月30日に宇品築港は完成しますが、事業費は大きくかさんでいました。ムルデルの設計金額18万余円は現在では約9億9千万円で、服部が提示したのが11万余円の約6億7百万円。最終的な築港費の決算は1890(明治23)年に30万余円と報告されており17億5千万円にも上りました。一方で、現在の埋立事業は1ha辺り10億円程度の費用がかかることを考えると、当時は干潟を締め切る堤防を築き、土地を造成するという簡易な工事であったこともあり、約230haの埋立をずいぶん安価に完成している感があります。

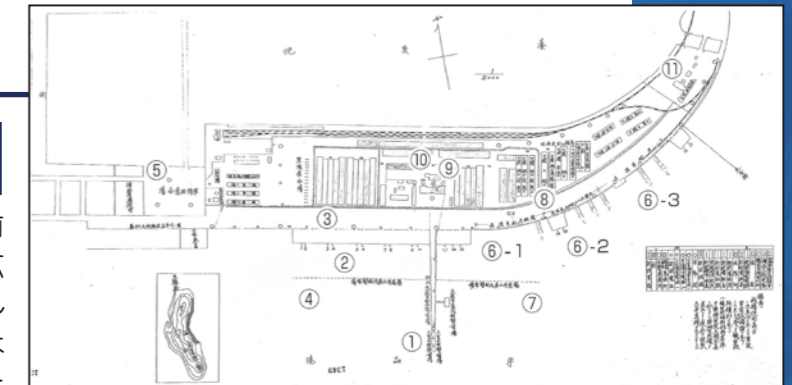


写真/郷土資料館「宇品港」8P
資料3~1894(明治27)年の宇品港周辺の様子

軍用港

軍用港のきっかけ

1894(明治27)年に勃発した日清戦争の際に、開戦前に広島陸軍第5師団に動員令が下りました。9月には、広島が東京と比べ地理的に大陸に近いこと、宇品港が完成していること、広島まで鉄道が開通していることなどから大本営が広島に進出することになりました。さらに開戦後には広島駅と宇品駅を結ぶ仮設軍用鉄道の整備が進められ、わずか半月で完成しています。1895(明治28)年4月には、棧橋の東側が軍用港に位置付けられ、民有地であったものが軍の管轄となり一般利用が不可となりました。その後、日露戦争、太平洋戦争と宇品は大陸への出兵基地として被爆・敗戦まで機能します。



郷土資料館「宇品港」56P
資料39~1920(大正9)年

軍用港

1920(大正9)年の宇品の施設は、①軍用棧橋、②大雁木、③ゲート、④小型船繋留地、⑤軍隊集会所、⑥-1~3軍用船の材料積み込み場所、⑦⑧を輸送する小型船の繋留地、⑧輸送船用資材倉庫、⑨陸軍運輸部本部、⑩宇品陸軍糧秣支廠の海岸倉庫(宇品線のプラットフォームに接して設置。長さ91m、高さ9.7m、面積1,320㎡)となっています。この後、1940(昭和15)年に陸軍運輸本部の西隣に凱旋館が竣工します。また、1909(明治45)年に建てられた旧広島水上警察署は現存する数少ないの建物となっています。



郷土資料館「宇品港」77P
資料67~1945(昭和20)年



1962(昭和37)年(国土地理院)
競輪場、外貨一部、東港区

養魚場・潮廻し

軍用港のすぐ北側には池か水路のようなものがあります。堤防を築き海水を締め切り干拓により造成された土地の排水は、堤防に設置した樋門を開けて行いますが、干満の差があり満潮時には海面が高くなるため常時開放できません。このため堤防内の水を一時的に貯めておく場所が必要でこれを潮廻しといいます。宇品築港の計画段階では、潮廻しはごく小さいものですが、完成時には13haもの規模になっており、授産事業の養魚場として拡張された可能性があるようです。養魚場は1933(昭和8)年から一部埋立られ運河として改修されましたが、埋め立てた土地はほぼ更地のままでした。



1975(昭和50)年(国土地理院)
港湾台庁、御幸松、宇品外貨、養魚場埋立

戦後の変遷

陸軍運輸部などの軍用施設は、引揚援護局、広島海上保安本部、広島公共職業安定所などへ貸付・譲渡され、その用途・施設として利用されました。終戦から17年が経過した1962(昭和37)年には、養魚場の埋立地に競輪場ができています。運河はそのままで、陸軍運輸部や凱旋館、倉庫群も残っています。③のゲートより沖側は埋め立てられています。また宇品線の線路が分岐され埋立てられた海岸まで延伸されているのがわかります。1975(昭和50)年には陸軍運輸部、凱旋館が更地となり、西隣に港湾台庁が見えます。宇品線の線路と糧秣支廠の倉庫は残っています。運河は埋立てられ更地となっています。市営棧橋東側も埋立てられましたが、旧水上警察署がわかります。1988(昭和63)年には、旧軍用棧橋の東側が埋立てられ波止場公園ができました。陸軍運輸部等の跡地は、宇品中央公園になり、凱旋館の記念碑、旧陸軍運輸部の碑などが設置されています。宇品線の線路は存在し、ホーム、糧秣支廠倉庫も見られます。戦後63年を経過した2008(平成20)年になると南道路が建設され、すっかり様変わりしました。宇品線の線路もホームもなくなり、旧水上警察署の屋根だけが変わらず残っています。



1988(昭和63)年(国土地理院)
波止場公園、宇品線線路

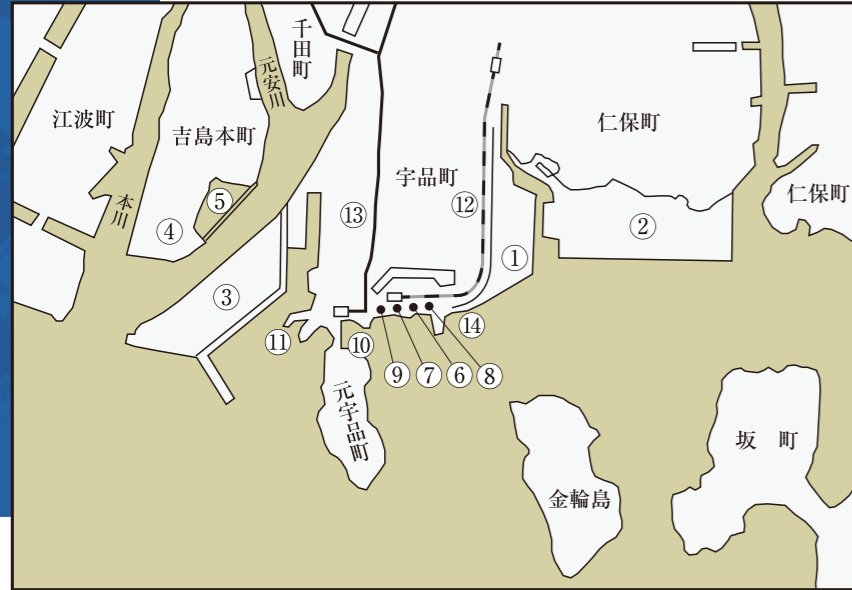


2008(平成20)年(国土地理院)
南道路高

産業の伸展と埋立

生産県構想

1951(昭和26)年に当選した大原知事は消費県より生産県にすることを掲げ、翌年に「生産県へのみち(生産県構想)」を公表しました。県民所得を全国水準まで引き上げるため、農林水産業・商工業の振興、交通網の整備強化、治山治水の確立の4つの重点施策を中心に事業を推進し、県経済は急激に成長しました。1962(昭和37)年には第二次計画がスタートし、臨海部の造成が急速に進展しました。



①	埋立	340,500㎡	広島港東港区A地区
②	〃	939,400㎡	広島港東港区B地区
③	〃	661,000㎡	広島港西港区
④	〃	11,200㎡	広島港西港区
⑤	水面荷捌場	180,000㎡	〃
⑥	第六管区海上保安部		広島市宇品町
⑦	広島税関支署		〃
⑧	広島検疫所		〃
⑨	中国開運局		〃
⑩	広島市営棧橋		〃
⑪	広島県営棧橋		〃
⑫	国鉄宇品線		
⑬	市内電車		
⑭	1万トンバース		

戦後50年広島県政のあゆみ 62P

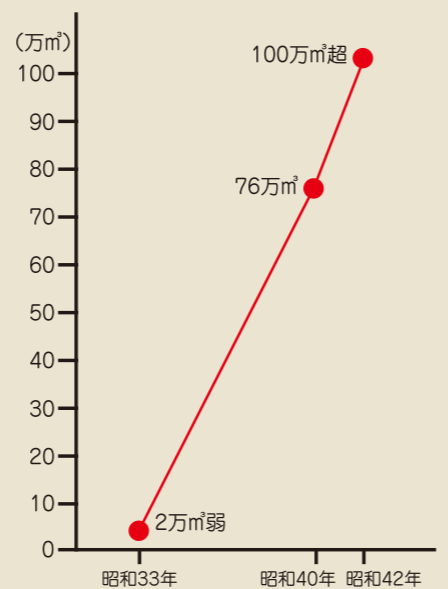
港域拡大・廿日市木材港

1960(昭和30)年代は、広島港の木材輸入量が急増した時期です。吉島に貯木場、出島に陸揚げ、野積場を整備しましたが、それでも足りず、海田沖で輸入外材を降ろし筏を組んで吉島や宇品内港の貯木場に運びました。1958(昭和33)年に2万㎡足らずであった広島港の木材輸入量は、1965(昭和40)年には76万㎡まで激増し、2年後の1967(昭和42)年には100万㎡を超えました。100万㎡の木材を荷卸し・荷捌き・貯木・加工・出荷が一貫して行える木材港が切望され、郊外で陸上交通の利便性が高い廿日市に木材港を建設することになりました。1970(昭和45)年に広島港の港湾区域に廿日市地区を編入し、港湾区域を拡大した後に着工し、1978(昭和53)年に完成、開港しました。



戦後50年広島県政のあゆみ 巻頭写真 廿日市木材港

■広島港の木材輸入量推移



海田湾埋立事業

数ある埋立事業の中で最も困難であったのが海田湾の埋立事業です。1969(昭和44)年に県が計画し翌年には民間企業により着手されましたが、埋立免許、漁業補償とその裁判、環境アセスメントの導入、埋立反対運動と訴訟、埋立権の放棄など苦難に次ぐ苦難の連続でした。

1974(昭和49)年12月に民間54社が埋立申請し、免許がおりたのは1978(昭和53)年8月。翌1979(昭和54)年1月に着工し、14年の歳月を経て、1984(昭和59)年4月に竣工式を迎えています。1993(平成5)年の段階で、海田コンテナターミナルの背後に進出したマツダをはじめとし立地企業120社、従業員数3,800人の団地となっています。

埋立免許

当初民間事業者13社が免許を埋立申請し、三井不動産㈱の協力により実施予定でしたが、民間埋立による不当利得が国会で問題となり、三井不動産の自社埋立が不可、エンドユーザー企業による埋立となり民間事業者65社に内定。その後のオイルショックにより54社が埋立免許を申請1974(昭和49)年1月しました。

免許がおりるのが1978(昭和53)年8月で、この間の2度に亘るオイルショックの影響により進出辞退を希望する企業が続出します。免許の審査中、免許直後に埋立権を放棄する企業が出ると事業は立ち行かなくなるところでしたが、着工まで54社を維持し、着工後に放棄した32社分を広島県土地開発公社が引き受けて事業が存続しました。

漁業補償

1971(昭和46)年10月三井不動産㈱が漁協との交渉を開始、埋立面積が103haと大きく、漁業権消滅区域が広いため交渉が難航し、1年半かけて3漁協で総額36億円余りの補償で妥結しました。その後、最初に妥結した組合から訴訟を提起され、和解までに1年以上かかり、総額45億円で3年を費やし解決をみました。

反対運動

1973(昭和48)年8月以降、各地区で「海田湾を守る会」が結成され、激しい反対運動が展開されました。当時は、開発に伴う環境問題・公害が社会問題化した時期であり、公有水面埋立法が改正され、環境アセスメントを求められることとなりました。全国第1号として環境アセスメントが提出されましたが、「守る会」との論争となりました。

「守る会」は国会、運輸省、環境庁に埋立反対の陳情を繰り返し、一方で埋立権者側の民間事業者、県も早期認可の陳情を重ねたため、免許が下りるまでの4年間は陳情合戦の様相を呈していました。また、県議会、国会で何度も「海田湾埋立」が審議され、衆院の公害対策及び環境保全特別委員会は2度も現地視察を実施し、全国的に注目を浴びました。「守る会」の住民らは、1978(昭和53)年に埋立免許取消訴訟を2度に亘り提起し、原告が1,000人を超えるマンモス訴訟になりました。1984(昭和59)年まで、6年間26回の口頭弁論と13回の和解交渉を経て和解が成立しました。ベイサイドビーチ坂の造成は海浜埋立の代替工事であり、和解条件の一つです。



海田コンテナターミナルと東部流通業務団地



ベイサイドビーチ坂

にぎわう宇品

市営元宇品海水浴場

元宇品は、築港前は宇品島と呼ばれ、暁橋で地続きとなっからは向宇品と言われるようになりました。現在、結婚式場やマンションが建っているあたりは、1889(明治22)年に埋立てられた土地で、築港工事の請負代金の一部として服部長七が受け取りました。

1965(昭和40)年に元宇品の西海岸に市営元宇品海水浴場が開設されました。50日間の営業でシーズンに15万人を超える市民が訪れたとありますので、1日3,000人の人出です。確かに1966(昭和41)年の写真を見ても駐車場がいっぱいです。この海水浴場は1969(昭和44)年までの5年間営業し、周辺の水質悪化のため閉鎖になりました。元宇品の海水浴場がなくなってからは、広島市内には海水浴場はありません。



藤原信雄氏所有写真

大にぎわい

今、最も宇品がにぎわうのは年に1度の宇品の花火大会です。1962(昭和37)年に宇品一帯で始まりました。2003(平成15)年に太田川花火大会と統合され、広島みなとまつりとなり、今年で16回を迎えました。昨年は豪雨災害と台風により中止されましたが、開催された一昨年も今年も44万人の人出でした。



宇品天然水族館

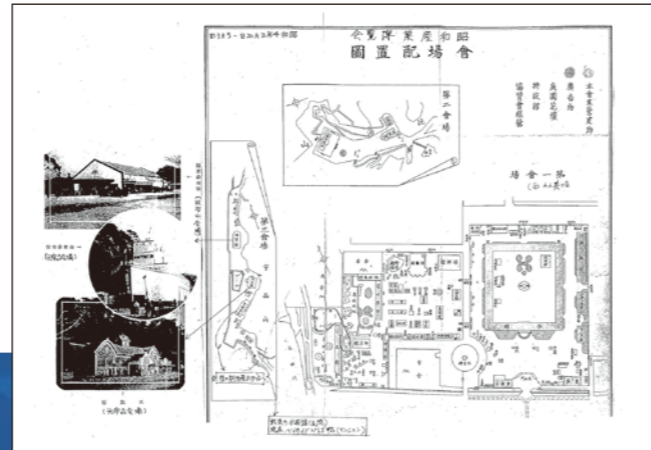
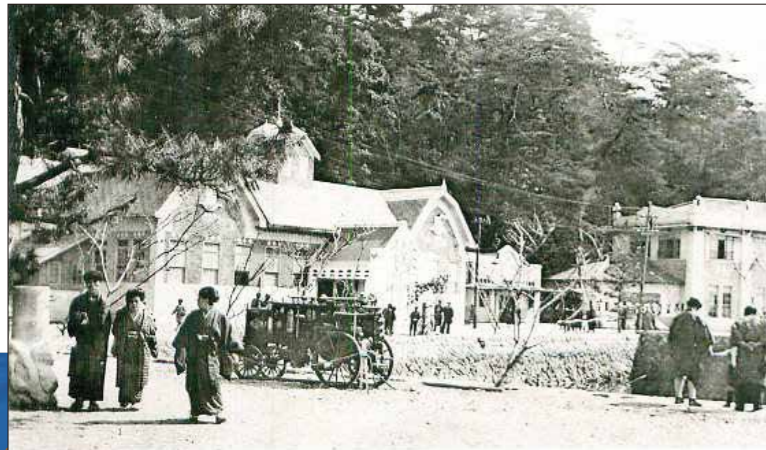
1958(昭和33)年から1980(昭和55)年までは元宇品には私設の水族館がありました。水族館は、元々海水浴場があった場所を埋立てそこに開設されました。園内には海水プールもありゾウやライオンもいたということなので動物園も併設していたようです。このため、海水浴場は南側に移動し、後年市営海水浴場となります。1971(昭和46)年の地図にはさらに南に防波堤に囲まれたヨットハーバーがあります。



広島市街図部分(6)昭和46年

別世界海水浴場

1929(昭和4)年に広島市が昭和産業博覧会第三会場(別世界会場)としてプール、水族館、望海食堂を設けました。復刻された1929(昭和4)年の地図には「別世界」が掲載されています。元々は、(株)宇品別世界が1922(大正11)年に服部長七の土地5,500坪を買収して一大リゾート施設を建設したものです。望海食堂の場所は現在は広島シーサイド病院となっています。



二つの棧橋

現在の広島港宇品には二つの旅客棧橋があります。宇品築港時に設けられた棧橋が1895(明治28)年に陸軍専用となり、新たに西側に商用棧橋が建設され、これを広島市が買い取り1923(大正12)年に市営棧橋となります。大阪商船の別府航路は同じ年に就航しています。1965(昭和40)年にはフェリーの発着場が完成し1975(昭和50)年までは別府フェリーの定期航路が就航していました。

一方、西側には1951(昭和26)年の地図上に県営棧橋があり、松山航路のほか島しょ部行き航路が就航しています。500メートルの距離を隔てて二つの棧橋があり、利用者の利便性がよろしくないため、県は宇品県営棧橋旅客施設事業に着手後の1967(昭和42)年に完成後の旅客ふ頭の管理を広島市に委託する規約を結びました。これにより、市営棧橋と県の旅客ターミナルの管理は広島市に一元化され、現在まで続いています。



大阪商船ポスター(大正末期~昭和初期のもの)

国際フェリーポートと船上劇場

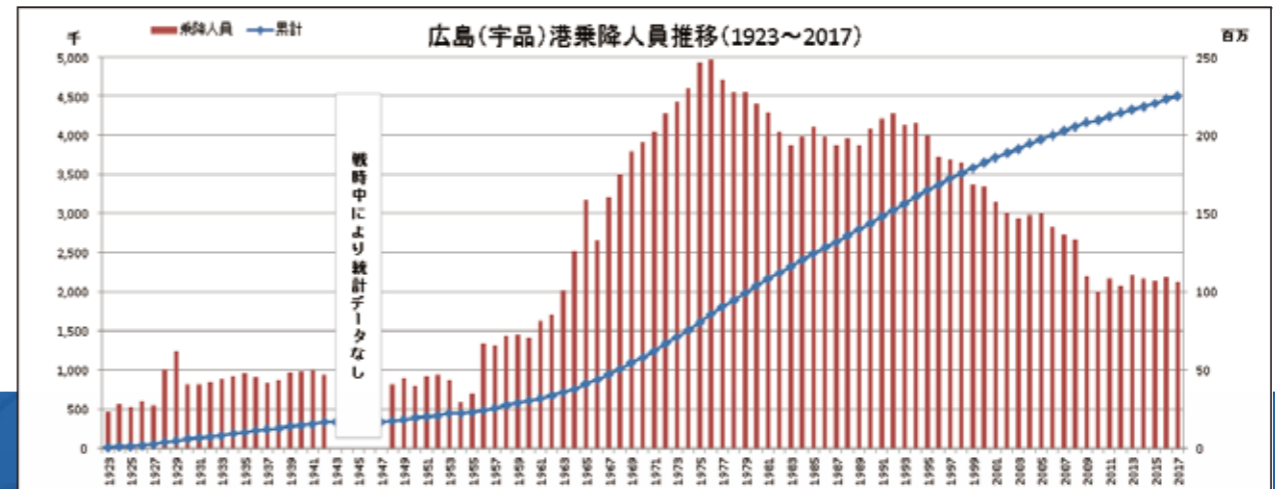
2002(平成14)年には、釜関フェリー就航に伴い出島東の岸壁・建屋を改修し広島国際フェリーポート整備し、運航開始しましたが2005(平成17)年に船舶の老朽化により運休となりフェリーポートも遊休施設となっていました。

今年2月に瀬戸内7県を本拠地に活動するSTU48は、広島国際フェリーポートを母港として「STU48号」を就役し、日本初となる船上劇場というスタイルで公演をスタートしました。新たなにぎわいとして今後の活躍が期待されています。



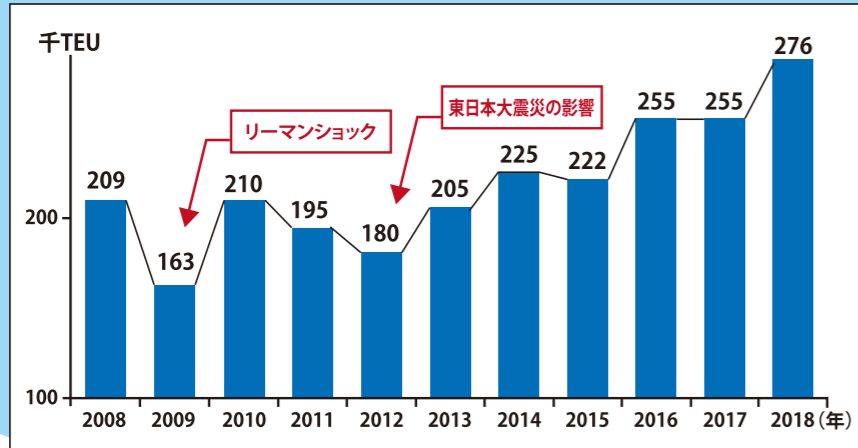
乗降客のピーク

県営棧橋は1976(昭和51)年に現在の東ターミナルが完成し別府フェリーもこちらに移行しました。広島港の乗降客数は1970年代にピークを迎え、年間500万人に迫る利用がありました。島しょ部航路125便/日、四国航路(松山・今治)35便/日、九州航路(別府)1便/日の便数でした。その後、新幹線の開通、瀬戸大橋、しまなみ海道などの架橋等の影響により1999(平成11)年に九州航路、2005(平成18)年には四国航路(今治)が廃止されました。現在は、年間200万人余りの乗降客数があり、今年松山フェリーに新造船が投入され、さらに、瀬戸内海の観光航路用に新たな高速船を建造する計画も公表されました。



広島港の今

コンテナ貨物の時代



初めて広島港でコンテナ荷物が取り扱われたのは、1983(昭和58)年のことです。今の国際フェリーポートの東に出島東岸壁があり、ここに上屋と荷役機械のジブクレーンが県市共同事業により1982(昭和57)年度に設置されました。1987(昭和62)年3月に海田コンテナターミナルが供用開始するのに先立ち、当該年度当初からポートセールス専任の職員が港湾課に配置され、本格的なコンテナ取扱いが始まります。

客船クルーズの時代

コンテナターミナルの供用開始と同時に韓国仁川航路、1990(平成2)年3月に台湾航路で週1便、1991(平成3)年にはニュージーランドのオークランド航路も開設されました。1987(昭和62)年のコンテナ取扱量は4.3万TEU、1994(平成6)年が7万TEUなので、その後のコンテナ取扱量の拡大には目を見張るものがあります。2017(平成29)年からは、「港湾運営会社制度」を導入し広島港国際コンテナターミナル及び海田コンテナターミナルは株ひろしま港湾管理センターが運営しています。利用者のニーズにスピーディに対応し、使い勝手のよい効率的なターミナル運営が進んでいます。



海田コンテナターミナル

広島港への客船寄港回数は、2015(平成27)年度に32回だったものが、翌2016(平成28)年度には1.6倍の51回に増加しました。同時期の外国人乗客数は約1.6万人から2.8倍の約4.5万人にまで急増しています。世界最大級22万トンの大型客船が着岸可能な五日市ふ頭を整備したところ、すぐに乗客定員4,180人の「クァンタム オブ ザ シーズ」が入港しました。一方、宇品外貿ふ頭には中・小型の客船が寄港しています。今後は宇品のふ頭にも大型の客船が着岸できるよう整備を始めたところです。

広島港からの主なアジア向け航海日数

向け地	便/週	曜日	接続港	航海日数
釜山	10	月～金	直航	1～4
上海	5	火・水・土	直航	2～4
寧波/天津/大連/青島	7	火～金	直航・上海/釜山	4～18
基隆	2	水・土	直航・高雄	4.5
台中	1	土	直航	4
高雄	2	水・土	直航	4～5
香港	8	火～土	直航・釜山	7～15
ハイフォン	8	火～土	高雄・釜山	9～14
ホーチミン	8	火～土	釜山/高雄	8～16
レムチャパン	10	火～土	釜山/高雄/上海	12～17
ジャカルタ	6	火～土	釜山/高雄	12～19
ポートケラン	8	月～土	釜山・高雄	11～22

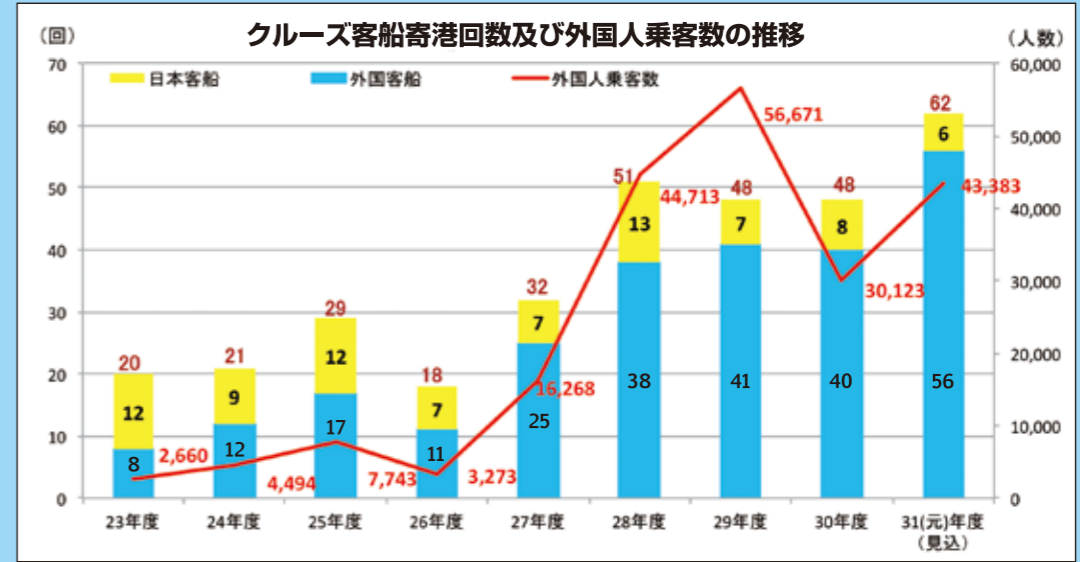


釜山、上海、高雄、香港 経由で、世界各国への輸送サービスが提供されています。
●: 直航 ●: 積み替え

航路名	便数	船社名	便数
韓国	週8便	興亜海運	週2便(火・金)
		汎洲海運	週1便(火)
		カメラライン	週2便(火・金)
		長錦商船	週1便(土)
		高麗海運	週2便(水・木)
韓国・中国	週1便	南星海運	週1便(火)
		天敬海運	2隻交互配船
		高麗海運	
中国	週6便	神原汽船	週2便(火・水)
			週1便(土)
			週1便(水)
		民生輪船	週1便(水)
台湾・東南アジア	週1便	ワンハイラインズ	週1便(土)
台湾	週1便	愛媛オーシャンライン	週1便(水)
北米	月1便 在来線	イースタン・カーライナー	月1便
国際フィーダー(神戸)	週8便	井本商運(株)	週8便(月・火・水・木・金・土)
		OOCLジャパン(株)	



五日市ふ頭



広島港の未来

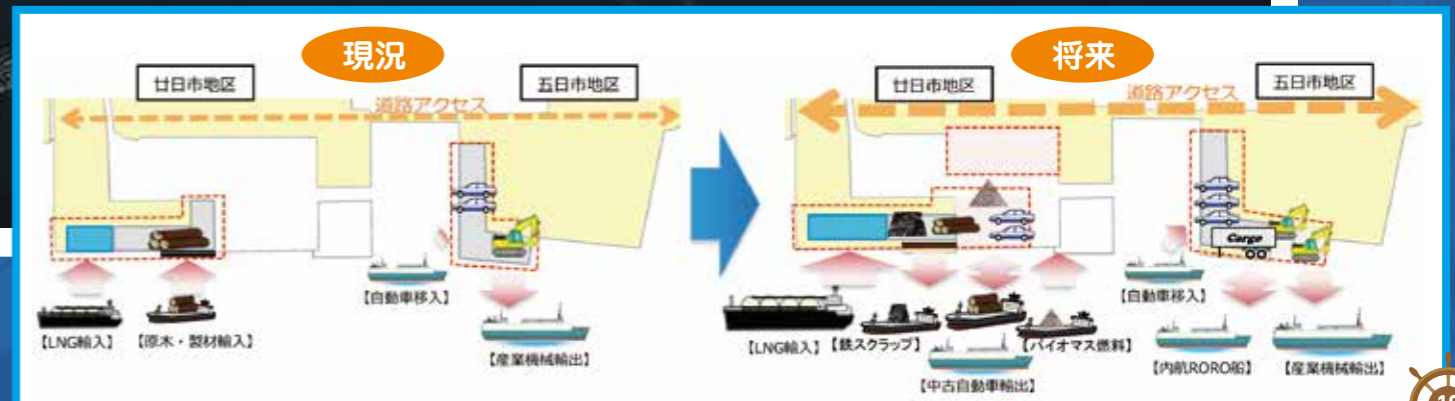
広島県では、おおむね30年先の長期的視野に立った総合的な港湾空間の形成とそのあり方について、県民へのアンケート調査や学識経験者及び港湾関係者、関係行政機関の意見や要請等をもとに「広島港長期構想」を、2018(平成30)年9月に策定しました。

「瀬戸内海を牽引するグローバルゲート 広島港 ～HIROSHIMAから世界へ・世界からHIROSHIMAへ～」を理念に、「物流・産業」面では、地域産業の持続的発展やアジア諸国等との交易拡大を支援する国際物流拠点を、

「人流・賑わい」面では、瀬戸内と世界とをつなぐ国際交流拠点を、また、「安全・安心」の分野では、防災性・安全性が高く環境と共生する港といった3つの側面から将来像と基本戦略を描いています。

この長期構想を基に、大きく変動する社会経済情勢、港湾物流の動向に対応し、将来に渡って背後企業の産業活動を支え、地域経済の発展に貢献する港づくりを推進するために、2019(平成31)年3月、広島港港湾計画が大きく改訂されました。

下図は、これらの将来構想が実現するであろう、概ね21世紀半ば頃の広島港宇品地区及び出島地区のイメージです。物流と賑わいの役割分担を踏まえた夢のある将来像が描かれています。千田翁が遺した業績を引き継ぎ、この素晴らしい将来像を実現すべく、郷土広島・母港広島港を愛し、誇りに想う全ての関係者が力を合わせて前進していくことが期待されます。



年表

年号	一般	広島港	他の交通モード
1171(嘉応3)	太田川河口に倉庫敷置、守護職武田氏の水軍形成により港の形態が整う		
1470(戦国時代)頃	太田川河口デルタに水夫を中心とした村落が村形成		
1589(天正17)	毛利氏が五か村広島城を築城、水陸交通を調え、船着場運河等を建設		
1867(慶応3)	大政奉還		
1871(明治4)	廃藩置県(広島藩は広島県となる)		
1873(明治6)	第5軍管広島鎮台設置		
1878(明治11)		県庁水主町移転(4.15)	
1880(明治13)	旧広島藩の士族 同進社を結成。士族没後事業を行う千田貞徳が広島県令に就任		
1884(明治17)		千田県令が宇品築港事業着手 仁保島村人民総代 宇品築港反対の陳情書を県に提出	
1886(明治19)	第5軍管広島鎮台を第5師団と改称	水上警察署が宇品に移転、1909年建替、現在に至る	
1889(明治22)	大日本国憲法発布	宇品築港事業竣工式典開催(1987.6月完成予定から30か月遅れ)11/30	
1894(明治27)〜	日清戦争 山陽鉄道、広島まで開通 明治天皇大本営を広島にすする臨時帝國第七議會を広島に召集陸軍貨物輸送支隊設置	日清、日露戦争を契機に昭和20年まで旧陸軍の軍用港となる	広島〜宇品間の仮設軍用鉄道開通(8月)
1904(明治37)	陸軍貨物輸送支隊設置が陸軍運輸部本部となる 日露戦争		
1905(明治38)		大阪商船株 大阪〜大連航路(宇品寄港)	
1906(明治39)			鉄道国有法に基づき国鉄に移管(12月)
1910(明治43)	韓国併合		
1911(明治45)			可部線横川〜可部間全通
1909(大正2)		旧水上警察署建設	
1912(大正元)	広島電気軌道開業し、市内に電車開通		
1914(大正3)	第1次世界大戦		
1915(大正4)			芸備鉄道株、広島〜三次間全通 宇品線は一般営業を廃止、軍専用となる。
1917(大正6)	株松田製作所(現:株日本製鋼所広島製作所)設立 ロシア10月革命		
1918(大正7)	第1次世界大戦終結		広島〜浜田間乗合自動車営業開始
1919(大正8)			宇品線の旅客営業廃止、貨物輸へ広島〜加計間バス営業開始
1920(大正9)	国際連盟発足、帝国人籍株式会社広島工場建設 東洋コルク工業設立(吉島)	広島市が棧橋を買収<1922(大正11)市営棧橋に>	東京地下鉄株設立
1922(大正11)	広島出身の加藤友三郎内閣総理大臣就任 ソビエト社会主義共和国連邦結成	埋立法により「宇品港」と指定	
1923(大正12)	関東大震災	宇品〜別府定期航路開設(大阪商船)	
1925(大正14)	治安維持法、普通選挙法成立		
1926(大正15)	浅野図書館開設 <昭和6(1931)広島市に寄付>	宇品〜大連定期航路開設	芸備鉄道株、広島〜東広島営業開始 山陽本線広島〜横川間複線工事完成→東京〜廿日市間の複線完成
1927(昭和2)	金融恐慌勃発 東洋コルク工業が東洋工業に社名変更	宇品港が食肉輸入検査海港に指定	
1928(昭和3)	広島県立女子専門学校開校 広島市役所 国泰寺町新庁舎に移転 織田幹雄がアムステルダムオリンピック3段跳びで金メダル		広島市内バス運行開始

年号	一般	広島港	他の交通モード
1929(昭和4)	広島市で昭和産業博覧会開催 広島初の百貨店福屋が開業	元宇品別世界が昭和産業博覧会の会場になる	
1930(昭和5)	世界大恐慌		
1931(昭和6)	東洋工業本社を府中町に移転 海州事変		
1932(昭和7)	内務省が太田川改修に着手 5.15事件	港域を拡大し「宇品港」改め「広島港」に	
1933(昭和8)	三陸沖地震・津波(死者・不明3064人) 国際連盟脱退通告 宇品港軍事取締法公布	第二種重要港湾に指定 宇品西埋立(商業港修築事業 内務省) 〜22年(1947)	広島市革屋町交差点に県内初の交通信号機設置
1934(昭和9)	瀬戸内海、雲仙・霧島が最初の国立公園に指定		
1935(昭和10)			宇品町に広島鉄道局新設
1936(昭和11)	2.26事件		
1937(昭和12)	盧溝橋事件勃発		芸備鉄道、広島〜備後十日市間(88.8km)国有化
1938(昭和13)	国家総動員法公布		
1939(昭和14)	第2次世界大戦		
1940(昭和15)	日独伊三国同盟調印 紀元2600年招賀行事 大政翼賛会広島県支部結成	広島県工業計画着手(埋立340ha 県)〜22年(1947)	
1941(昭和16)	太平洋戦争(真珠湾攻撃)		
1942(昭和17)	米空軍の本士初空襲(4.18) ミッドウェー海戦		関門海底トンネル竣工(鉄道) 広島・呉・仁方間に省営バス
1943(昭和18)	イタリア無条件降伏 学徒出陣始まる	三菱重工業広島造船所・ 広島機械製作所起工(広島港工業港区)	
1944(昭和19)	閣議 学童集団疎開を決定 サイパンの日本守備隊全滅 県内初のB29空襲		
1945(昭和20)	広島市に中国軍管区司令部設置 ヤルタ会談、東京大空襲 広島市に原爆投下(8.6) 長崎市に原爆投下(8.9) 戦争終結、国際連合成立 枕崎台風襲来 県内の死者・行方不明者2,012人	県庁消失、 下柳町(現山陽東警察署)に設置、8.7→ 府中町(東洋工業内、8.20)	
1946(昭和21)	県庁庁舎移転(7.15)旧陸軍兵器補給廠 極東国際軍事裁判開廷 日本国憲法公布(11.3)		
1947(昭和22)	教育基本法・学校教育法公布 第1回知事・市長選挙		
1948(昭和23)	大韓民国樹立宣言 GHQ 経済安定9原則発表	広島県に港湾課設置(5.18) 貿易港として開港指定	
1949(昭和24)	国立広島大学設置 広島平和記念都市建設法公布 中華人民共和国成立		日本国有鉄道発足
1950(昭和25)	プロ野球広島カープ球団結成 朝鮮戦争、東洋工業 小型4輪トラック発売 広島大学開学式		広島バス株営業開始
1951(昭和26)	対日平和条約・日米安全保障条約調印(サンフランシスコ講和条約) 広島県で第6回国民体育大会開催	重要港湾に指定	羽田空港、米軍から返還 東京国際空港と改称
1953(昭和28)	奄美群島返還	宇品線分岐公共臨港線整備(現「M7」)1,176m 宇品外貨ふ頭改修着手(内務省)〜63年(1988) 運輸省第三港湾建設局広島港工事事務所設置(8月) 広島市と貨物を結ぶ広島県が港湾管理者となる	
1954(昭和29)	マクロ漁船第五福丸事件 広島平和記念式典挙行		第1回全日本自動車ショー開催
1955(昭和30)	広島平和記念資料館開館		株広島バスセンター設立 広島県バス協会設立
1956(昭和31)	経済白書「もはや戦後ではない」 日国交回復共同宣言調印 日本、国連に加盟	県庁基町移転(4.19)	日本道路公団設立

年号	一般	広島港	他の交通モード
1957(昭和32)	広島市民球場完成 日ソ通商条約調印		宮島大観光船(有)設立 広島バスセンター開業
1958(昭和33)	広島城天守閣復元 広島復興大博覧会開催	東港区臨海工業地帯埋立事業 (128ha 県)〜39年(1964)	
1959(昭和34)	皇太子殿下ご成婚	宇品外貨1万トン搬入完成(3月)	
1960(昭和35)	安保闘争 所得倍増計画を閣議決定		30万円台の大众乗用車「マツダ・クーペ」登場
1961(昭和36)		西港区中小企業工業地帯埋立事業 (67ha 県)〜40年(1965) 宇品線分岐公共臨港線整備(現外貨西側)	広島空港開港 中国地区初の個人タクシー営業許可 菅戸大橋開通(12/3)
1962(昭和37)	(社)日本旅行業協会発足・キューバ危機	宇品一帯で花火大会を開催	国鉄山陽本線、広島以東の電化完成
1963(昭和38)			広島〜東京間の直行航空便が就航 宇品線、国道2号踏切閉鎖(国鉄が廃止を打ち出し)
1964(昭和39)	日本がOECDに加盟	宇品県営棧橋旅客施設事業(県)〜50年(1975)	山陽本線全線電化
1965(昭和40)	アメリカがベトナム北緯を開始 太田川放水路通水式 日韓基本条約調印・広島女子大学開学	市営元宇品海水浴場開設(〜44(1969)年)	広島民衆歌(駅ビル)開業
1966(昭和41)	日本の総人口が1億人を突破 東洋工業宇品工場完成		宇品線旅客営業は(広島〜上大河)定期のみ(上大河〜宇品)は廃止、貨物は廃止。 広島駅新線として夜間1往復運転 国道2号バイパス(海田大正町〜観音本町)開通
1967(昭和42)	ASEAN(東南アジア諸国連合)発足	宇品旅客ふ頭の管理を広島市に委託	
1968(昭和43)	大気汚染防止法公布・3億円事件		
1969(昭和44)	広島県公害防止条例公布		東名高速全線開通
1970(昭和45)	核拡散防止条約に調印 日本万国博覧会(大阪)開幕	広島東部工業団地(海田湾)(13社)埋立免許申請(47.3ha) 港湾区域変更により廿日市港区編入 廿日市木材港改修事業に着手(95ha 運輸省、県)	宇品線問題協議会設置(12.19)
1971(昭和46)	環境庁設置、対ル変動相増制実施	西部開発事業起工(328ha、57(1982)年竣工)	県内初のノーカーデー実施
1972(昭和47)	札幌オリンピック開催 あさま山荘事件、沖縄諸島返還 列島改造論、日中国交回復		宇品線廃止(3.31) 宇品四者協定締結として発足(4.1) 山陽新幹線(新大塚〜岡山)開通
1973(昭和48)	第1次オイルショック	東洋工業が仁保沖町(東港区沖)の埋立事業着手(54ha〜元年(1989年))	早瀬大橋開通(10/26)
1974(昭和49)		広島東部流通業務団地(海田湾)(54社)埋立免許申請(103.5ha)出島フェリー埠頭整備事業着手(フェリー埠頭公社)〜51年(1976)	広島市内でバス専用レーン開始 広島大橋開通(5/15) 広島バスセンター新装開業
1975(昭和50)	ベトナム戦争終結 沖縄国際海洋博覧会開催 広島東洋カーブ、セ・リーグ初優勝		山陽新幹線 岡山〜博多間開通(3/10)
1976(昭和51)			超音速旅客機コンコルド就航
1977(昭和52)	第1回フワワーフェスティバル開催		全日空 広島〜鹿児島線就航
1978(昭和53)	宮城県沖地震(M7.5)発生 日中平和友好条約調印	廿日市木材港開港 海田湾整備事業着手(151ha 運輸省、県、54社・14社)〜61年(1986)	新東京国際空港(成田空港)開港
1979(昭和54)	広島東洋カーブ初の日本一		福岡の路面電車廃止 広島〜東京間にジェット機就航
1980(昭和55)	広島市が政令指定都市となるモスクオリンピック開催(日本、米、西独など8割諸国がイコクト) イソノイが戦争広島東洋カーブ2年連続日本一		
1981(昭和56)	ローマ法王 ヨハネ・パウロ二世来広		
1982(昭和57)		出島東岸壁に上屋、ジブクレーンを設置	広島グリーンフェリー、 広島〜大阪航路を運休 横川駅前広場整備完了
1983(昭和58)	東京ディズニーランド開園 三宅島噴火	出島東岸壁で初めてのコンテナ荷役(7月)	中国縦貫自動車道(大阪〜下関)全通 バス会社6社の共通回数券発売
1984(昭和59)	ロサンゼルスオリンピック開催(ソ連、東独など東側がボイコット) 広島東洋カーブ4年ぶりの日本一	海田大橋整備着手(県)〜2年(1990)	
1985(昭和60)	広島市が100都市となる 男女雇用機会均等法公布 日航ジャンボ機墜落、プラザ合意		広島自動車道、 早津田田道が開通

年号	一般	広島港	他の交通モード
1986(昭和61)	チェルノブイリ原発事故 東京サミット開催 広島東洋カーブ5度目のリーグ優勝		一般道でシートベルト着用義務化
1987(昭和62)	国鉄の分割民営化、JR旅客6社等発足 日本航空が完全民営化	海田CT完成 五日市整備事業着手(154ha 運輸省、県)〜30年代半ばは予定	山陽道 五日市〜廿日市JCT開通(2/26) 広島高速交通株式会社
1988(昭和63)	東京ドーム落成		山陽道 広島東〜広島C開通(3/25) 瀬戸大橋開通(4/10) 山陽道 広島〜広島JCT開通(12/7)
1989(平成元)	「海と島の博覧会」開催 ベルリンの壁崩壊、東西冷戦の終結(ブッシュ、ゴルバチョフ両首脳が表明)	広島湾築港100周年	
1990(平成2)			広島岩国道路 大野〜大竹間開通(11/27)
1991(平成3)	湾岸戦争勃発 豊山嶺富士石炭発生 「ルマン24時間耐久レース」でマツダが総合優勝 ヒート連環戦、パルム経済突破	観音地区マリナー整備事業着手(24ha 県、広島湾環境開発)〜10年(1998) 海田大橋供用開始	
1992(平成4)	プロサッカーチーム「サンフレッチェ広島」設立	特定重要港湾に指定、広島ポトルネッス21・宇品内港地区港湾整備事業着手(53ha 運輸省、県)〜18年(2010) 宇品外貨インフォメーションセンター完成	
1993(平成5)	Jリーグ開幕	廿日市木材港改修工事(工期)着手(23ha 県)〜9年(1997)	山陽道 山陽姫路東〜山口JCT全線開通(12/16) 広島空港開港(三原市)
1994(平成6)	関西空港が開港 アジア競技大会広島開催		アストラライン開業 広島呉道路 全線開通(8/30)
1995(平成7)	阪神淡路大震災発生(M7.2) 地下鉄サリン事件発生		
1996(平成8)	ひろしま国体開催 原爆ドーム、厳島神社が世界遺産に認定	広島ポトルネッス21・出島地区港湾整備事業着手(135ha 運輸省、県)継続中	
1997(平成9)			山陽自動車道全通
1998(平成10)		広島観音マリナー供用開始	明石海峡大橋開通(4/5)
1999(平成11)	欧州連合(EU)導入 東海村JCO臨界事故発生	ベイサイドビーチ坂(第1期区間)供用開始	しまなみ海道開通(5/1)
2001(平成13)	芸予地震(M6.7) 紙屋町地下街「シャレオ」開業	広島はつかいち大橋供用開始	ICカード「Suica」首都圏でサービス開始
2002(平成14)	日韓共催 ワールドカップサッカー開催 初の日朝首脳会談開催	広島国際フェリーポート供用開始	
2003(平成15)	新型肺炎SARSが拡大	広島湾国際コンテナターミナル、宇品旅客ターミナル、廿日市ポートパーク供用開始	
2007(平成19)	新潟中越沖地震(M6.8)、郵政民営化	ポートパーク広島供用開始	
2008(平成20)	後期高齢者医療制度スタート リーマンショック、観光庁発足 サンフレッチェ広島J2で優勝	五日市漁港フィッシャーリーナ、ベイサイドビーチ坂(第2期区間)供用開始	
2009(平成21)	マツダスタジアム開場	五日市人工干潟(Ⅰ期)完成	ETC休日特別割引(1,000円割引)(3/28〜2011/6/19)
2010(平成22)	東北新幹線全線開通	千田県令による宇品築港完成	広島高速2号線(宿中・保道路)開通(4.26)(1号が海田大橋、広島に直結)
2011(平成23)	東日本大震災(M9.0) 福島第1原子力発電所事故		
2012(平成24)	習近平最高指導者、総書記、主席に就任、日中、日韓関係悪化 サンフレッチェ広島Jリーグ優勝	広島湾国際CTにガントリークレーン1基増設	
2014(平成26)	御嶽山噴火、広島土砂災害		広島高速3号線(吉島〜観音)開通(3.23)
2015(平成27)	ラグビーW杯で日本が南アフリカに勝利 サンフレッチェ広島Jリーグ優勝		
2017(平成29)	森友、加計、自衛隊日報問題 核兵器禁止条約国連採択 広島東洋カーブ連覇	広島湾CTの運営を民間(港湾管理センター)に委託	
2018(平成30)	西日本豪雨、北海道胆振東部地震 広島東洋カーブセ・リーグ3連覇	海田CTにガントリークレーン1基増設	
2019(平成31、令和元)	サッカースタジアムが中央公園に内定	広島湾築港130周年	瀬戸内海汽船が広島〜松山航路に新造船を投入